

Pick up イベント

哲学カフェ「レディースデーは差別か？」

2010年12月15日(水)

豊中人権まちづくりセンター

進行：松川絵里

今回の哲学カフェは、豊中人権まちづくりセンターが主催している「人権文化のまちづくり講座」の一環としておこなわれた。いつも講師を招いて話をきくレクチャースタイルの講座を開催しているが、参加者が自分自身で考え話し合う機会をということで、2回にわたって哲学カフェを開催することになった。

1回目の「レディースデーは差別か？」というテーマは、カフェフィロの過去のテーマ「女性専用車両は差別か？」をヒントに、企画者である一般財団法人とよなか人権文化協会のみなさんが考えてくれた。女性専用車両については、男性を中心に「差別だ」という意見も多かったが、今回、レディースデーについて「差別だ」と答えた人は1名のみ。しかも、「レディースデーは差別的だが、男性差別ではないと思う」という。一体どういうことだろう？

議論の要は、ある女性の「女性は職場など他のところで差別をうけているので、それぐらいの優遇措置があってもよい」という発言だった。これでは、優遇措置があるからお給料は安くてもよいということになりかねない。「一見女性に対する優遇措置であるものが、女性を特別扱いすることにより女性差別を温存してしまう可能性もある」、「差別そのものではないけれど、女性に対するある種の見方が反映されているのでは？」と疑問の声が相次ぎ、そこから「差別と区別のちがいは？」、「客観的なちがいはありうるか？」と差異に関する根本的な問い合わせが繰り広げられた。

哲学カフェは初めてという方が大半だったが、言葉が通じなかつたり、発言しながら自分自身の矛盾に気づいたり、哲学カフェのやり方について質問がでたりといったシーンもあり、とても刺激的な対話だった。参加者

のみなさんのテーマへの関心の高さのおかげだろう。機会があれば、今後もこのようにふだんから人権問題に取り組む場所で対話づくりに関わってみたい。（報告：松川絵里）



寒い平日の夜にもかかわらず、20名ほどの参加者が集まつた。哲学カフェのように参加者主体のスタイルは初めてにもかかわらず、積極的に発言が相次いだ。

【豊中人権まちづくりセンター】

豊中人権まちづくりセンターは、隣保館、児童館、老人憩の家、センター保育所、子育て支援センター、ホールなどの多様な機能をもった複合施設で、同和問題をはじめさまざまな差別の解消と、人権尊重のまちづくりを進めるための活動を行っている。主な事業は、各種イベント等による地域交流、地域青少年の仲間づくり、子育てや介護保険、就労などの相談による日常生活支援、自主活動への場の提供、そしてパネル展や情報紙発行などの情報発信など。

小さい頃によく、琵琶湖に遊びに行つては湖に立ち向かい、水にはまつて、ずぶ濡れで泣いていたらしい。お前はほんまに、なんでそんなことそこにはばかり、行きたがるのかなあと、母親にときどき言われる。

4月から、ある私立中学・高等学校で常勤の教員になることが決まつた。教員になりたいと考え続けてきたのは、とにかく自分のような経験をしてほしくない、ひとりでも自分のようになってほしくない、それだけのことだった。

まだ、学校に通つていたある時期に、「心が凍つてしまつた」。

そこには、誤解しかなかつた。いっぱいの学校。テストの点数がひと月ごとに張り出され、そのランキングで、クラスの中での立ち位置と、教員の対応が決まる。部活は、選ばれた優秀なアスリートにしか許されず、生徒会とは名ばかりの、事務仕事の山。逃げ場というものが、なかつた。だから、心に鍵をかけた、カチッ。閉じてしまえば、実に簡単なことだつた。すこしずつ嬉しいことも、悲しいことも消えていった。

感覚が鈍くなつていき、必要なこと以外は何も喋らなくなつた。担任に、大学はどこでもいいから文学部に行きたいと伝えたとき、その意味が理解されず、全部勝手に決めてしまうんやな、という言葉を叩き付けられた。学校に期限がなかつたなら、自分は本当にダメになつていたかもしれない、今でも思う。

言葉が受け取られるということが、何かそのような場所が、ひとつでもありさえすれば、何かが変わつたはずだよ、と悩みまくつていた自分に言いたい。だから、学校に「対話を持ち込む。「学校」というやつに、風穴を開けてやろう。琵琶湖くらい泳ぎきつてやりますよ、きっと。

【中川雅道】
カフェフィロ会計担当。大阪大学文学研究科・博士前期課程。カフェフィロブログのハンドルネームは、熊。柔道をする時間がなくなり、最近やたらと太ってきた。

動け！ 考える前に！

メンバーコラム

中川雅道

「職業の教育的意義」とはなにか

一月二十八日（水）

アートエリアB1
進行：三浦隆宏

これまでの哲学セミナーにはやや物足りなさを感じるところがあった。ゲスト講師によるレクチャーと参加者からの質疑応答で所定の時間が来てしまふ、そういう講演会的な回が多いよううに「参加者の目からは見えていたからだ。

哲学カフェほど自由な（ゆるい？）場ではないものの、レクチャーとそれへの質疑応答で終わることもない、講師と参加者がともに考えを深めてゆけるような場としてのセミナーを作れないものか。そう思い、今回はゲストを呼ぶことはせず、自分がゲストと進行役を兼ねるというスタイルでやってみることにした。イメージとしてはそう、あのサンデルの「白熱教室」のようなもの、のはずだった。

ところがうまくいかない。「職業の教育的意義」に対して疑問を抱かせる背景として、企業が新

社会人に「即戦力」や「使える人」を求める傾向があることや、企業や役所がかかる不正といった例を出したのだが、本題への前置きであるその例に対し、参加者から異論が相次いだのだ。ふだん大学等の教室で向かい合っている学生であれば、「その例って適當？」と思つても大抵は黙っている。しかし、ここの人たちにはそういう甘えは通用しない。「企業が即戦力を求めるからといって、職業に教育的意義がないとは言い切れないのではないか？」「不正は職業に就いていない子どもがだつてしますよね？」など、本題に入る前に、僕の予断はつぶりと吟味にさらされた。参加者の予断を吟味するのではなく、こちらが吟味されるという逆ソクラテス的状況、そんな感じだった。

教育とトレーニングとの関係、また「教育的

意義とは誰にとっての意義なのか？」など、まったく想定していなかつた論点も次々に出てきて、レクチャーとして僕が思い描いていた段取りは脆くも崩れ去ることに。これではいつもの哲学カフェと変わらない。

サンデル先生のようなセミナーに近づける日はまだまだ遠い。（報告：三浦隆宏）

【中之島哲学「コレージュ】

十二月八日 哲学カフェ 「キャリア教育って何？」

三浦隆宏
十二月二十一日 哲学セミナー 「社会人基礎力とは」
守本憲弘、森本誠一

一月二十八日 哲学セミナー
「職業の教育的意義」とはなにか
三浦隆宏



京阪電鉄なにわ橋駅構内のアートエリアB1にて。講師の三浦隆宏さん（摂南大学非常勤講師／右）と意見を述べる参加者。

2010年12月～2011年1月活動一覧

- 2010.12.08 哲学カフェ 「キャリア教育って何？」 アートエリアB1 三浦隆宏
- 2010.12.12 哲学カフェ 「～いのちをおくる～」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 2010.12.15 哲学カフェ 「レディースターは差別か？」 豊中人権まちづくりセンター 松川絵里
- 2010.12.18 哲学カフェ 「愛は地球を救えるか？」 カフェサンナミジ 高橋綾
- 2010.12.18 哲学カフェ 「子どもが集まるこの意味」 Café Klein Blue 寺田俊郎
- 2010.12.21 哲学カフェ 「理性と感情、どっちが大事？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 2010.12.22 哲学セミナー 「社会人基礎力とは」 アートエリアB1 守本憲弘、森本誠一
- 2010.12.26 哲学カフェ 「バリアとはなにか」 せんだいメディアテーク 西村高宏
- 2011.01.09 シネマ哲学カフェ『海炭市叙景』 シネ・ヌーヴォー 中川雅道
- 2011.01.14 テツドク！：源信『往生要集』 さする庵 長谷川裕峰
- 2011.01.15 哲学カフェ 「苦しみってなんだろう？」 とよなか国際交流センター 中川雅道
- 2011.01.16 哲学カフェ 「恋をするってすべきなこと？」 コーヒーショップ JUN 藤本啓子
- 2011.01.18 哲学カフェ 「人はどんなときに楽しいと感じるか？」 神戸市北区子育て支援センター 松川絵里
- 2011.01.21 書評カフェ『ともだち刑』 カフェドギャルソン 西村高宏
- 2011.01.22 哲学カフェ 「本物」 Café Klein Blue 寺田俊郎
- 2011.01.25 哲学カフェ 「あなたにとって人権って何？」 豊中人権まちづくりセンター 松川絵里
- 2011.01.28 哲学セミナー 「『職業の教育的意義』とはなにか」 アートエリアB1 三浦隆宏
- 2011.01.29 哲学カフェ 「人は本当に成長するのか？」 千里公民館 高橋綾
- 2011.01.30 メディカルカフェ 「尊厳死について」 カフェP/S 藤本啓子

賛助会員募集中！ カフェフィロでは、カフェフィロの活動に賛同し協力してくださる賛助会員（年会費3,000円）を募集しています。会員の方には、『哲学喫茶』最新号と、『哲学喫茶瓦版』（隔月発行）をお送りします。詳しく info@cafephilo.jp まで。

CAFÉ PHILO（カフェフィロ）

2005年、大阪大学・臨床哲学研究室のメンバーを中心に発足。哲学カフェ、哲学対話セミナー（こども／大人対象）など、哲学の対話を促進する活動を展開中。

〒537-0023 大阪市東成区玉津3丁目8-6ロイヤル丸文II 406号室 たまてばこ内

e-mail : info@cafephilo.jp http://www.cafephilo.jp

哲学喫茶瓦版 2011年2月20日発行

発行人：高橋綾 編集・デザイン：松川絵里

